平成 27 年度

中学校第３学年

国語　A

注　意

1　先生の合図があるまで、冊子を開かないでください。

2　調査問題は、1ページから24ページまであります。

3　解答は、全て解答用紙（解答冊子の「国語A」）に記入してください。

4　解答は、HBまたはBの黒鉛筆（シャープペンシルも可）を使い、**濃く、はっきりと**書いてください。

5　解答を選択肢から選ぶ問題は、解答用紙のマーク欄を黒く塗り潰してください。

6　解答を記述する問題は、指示された解答欄に記入してください。解答欄からはみ出さないように書いてください。

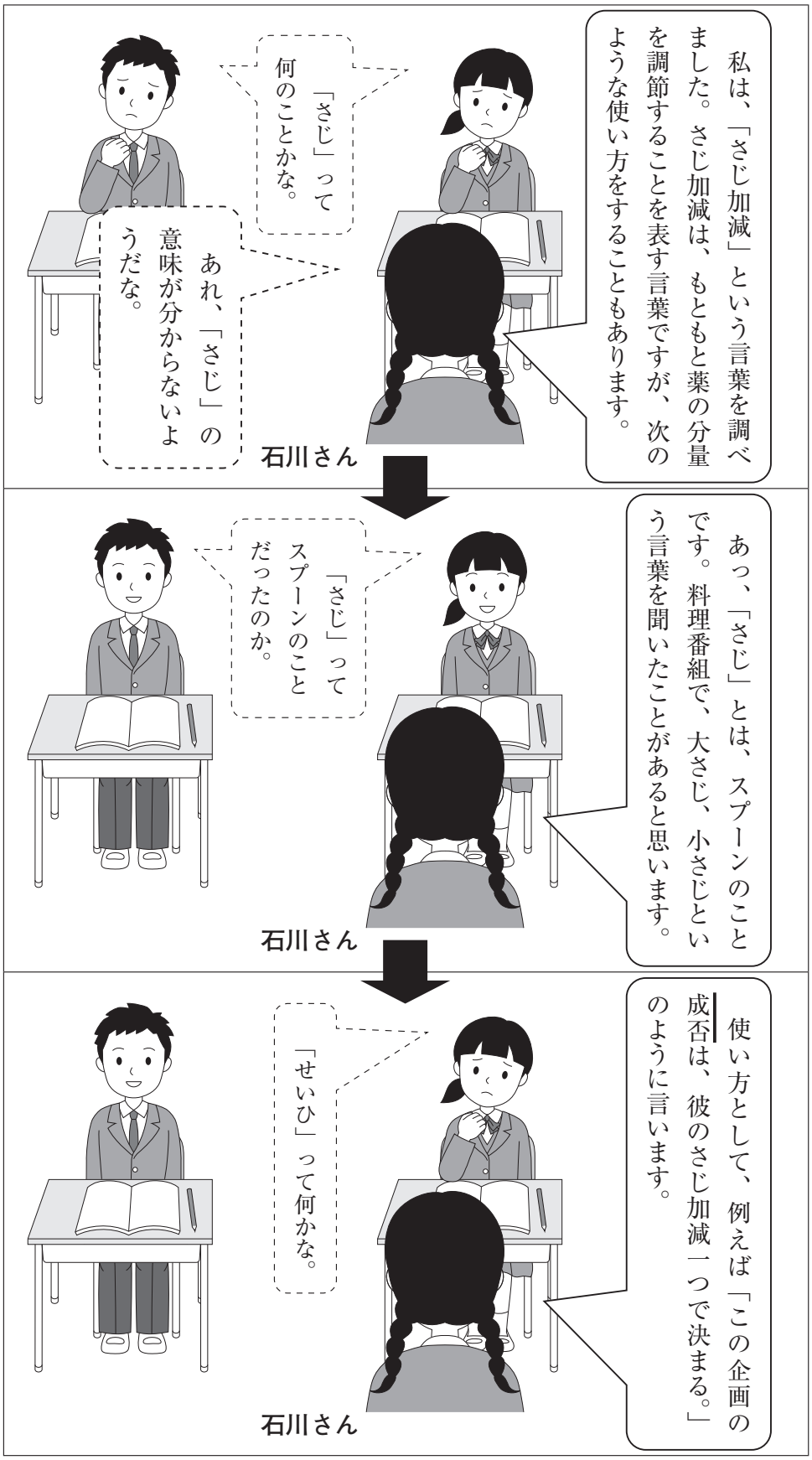
7　解答用紙の解答欄は、裏面にもあります。

8　調査時間は、45分間です。

9　「国語A」の解答用紙に、組、出席番号、性別を記入し、マーク欄を黒く塗り潰してください。

問題は、次のページから始まります。

1 石川さんは、調べた言葉についてスピーチをします。次は、リハーサルの様子の一部です。これを読んで、あとの問いに答えなさい。（　　の中は、頭の中で考えていることを表します。）



一　石川さんは、**場面①**で聞き手の反応を見て、**場面②**のような対応をしました。石川さんがとった対応として最も適切なものを、次の**1**から**4**までの中から**一つ**選びなさい。

1　説明が必要ないと感じたことを一部分省略した。

2　聞き手の理解が得られるまで同じことを何度も繰り返した。

3　聞き手の理解を確認するために問いかけた。

4　説明が必要だと感じた言葉について補足をした。

二　石川さんは、リハーサル後に友達から、**場面③**の――線部「成否」の意味が分かりづらいので、**聞いて分かりやすい表現**に直した方がよいというアドバイスをもらいました。どのような言葉に直すとよいですか。次の□に当てはまる言葉を**十字以内**で書きなさい。

この企画が□は、彼のさじ加減一つで決まる。

2

次は、山川さんが書いた【意見文の下書き】です。これを読んで、あとの問いに答えなさい。

【意見文の下書き】

本を読んだとき、印象的な言葉に出会ったり、筆者の考えに共感したりすることがある。しかし、読み終わったときには覚えていても、少し時間がたつと忘れてしまい、本のどこに書いてあったかも分からないという経験をしたことはないだろうか。

私は、読んだ本について記録を残すことが大事だと考える。なぜなら、本を読んだ記録を残すことは大切なことだからだ。

具体的には、本のページの角を折ったり、しおりを挟んだり、気になる箇所に線を引いたりするなど、本に印を付けて読む方法がある。また、ページ数をノートにメモしながら読むのもよい。メモをするとき、書名（Ⓐや著者名、出版年）など本の基本的な情報や、気になる箇所を書き写しておけば、それがそのまま自分の読書記録になる。そうすれば、自分がその本を読んだときに考えたことをいつでも振り返ることができる。

せっかく読書をするのであれば、本から得た内容をしっかり自分のものにしたい。そういう意味でも、記録を残す読書は有効である。ぜひ一度、実践すべきだ。Ⓑしてみてはどうだろうか

一　山川さんは、**【意見文の下書き】**を読んだ友達から、――線部「なぜなら、本を読んだ記録を残すことは大切なことだからだ。」の部分が不適切であるという指摘を受けました。その理由として最も適切なものを、次の**1**から**4**までの中から**一つ**選びなさい。

1　書いてある内容が二通りに受け止められて、伝えたいことが明確ではないから。
2　書いてある内容と結論との関係がなく、文章全体としてのつながりがないから。
3　書いてある内容が意見の繰り返しであり、意見を支える根拠になっていないから。
4　書いてある内容と他の部分とが矛盾していて、論として筋が通らなくなっているから。

二　山川さんは、**【意見文の下書き】**を読み直して、Ⓐと Ⓑの二箇所を直しました。その意図として最も適切なものを、次の**1**から**4**までの中からそれぞれ**一つ**選びなさい。

1　難しい言葉を削ることで、読み手が一読して理解できるようにした。
2　読み手にはたらきかける表現を取り入れて、共感を得ようとした。
3　重要な言葉を繰り返して、伝えたいことを強く印象付けようとした。
4　例を増やすことで、あいまいな部分をより具体的にしようとした。

3 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

〔ここまでのあらすじ〕 山あいの小さな小学校に高田三郎（たかださぶろう）が転校してきた。三郎が何かすると風が吹いたので、子供たちは伝説の風の神の子である「風の又三郎」かもしれないと思った。翌朝、一郎と嘉助（かすけ）が運動場で待っているところに三郎が現れた。

「来たぞ。」と一郎が思わず下にいる嘉助へ叫ぼうとしていますと、早くも三郎はどてをぐるっとまわって、どんどん正門をはいって来ると、①

「お早う。」とはっきり言いました。みんなはいっしょにそっちをふり向きましたが、②一人も返事をしたものがありませんでした。

それは返事をしないのではなくて、みんなは先生にはいつでも「お早うございます。」というように習っていたのですが、お互いに「お早う。」なんて言ったことがなかったのに三郎にそう言われても、一郎や嘉助はあんまりにわかで（注1）、また勢いがいいのでとうとう臆（おく）してしまって一郎も嘉助も口の中でお早うというかわりに、もにゃもにゃっと言ってしまったのでした。

ところが三郎のほうはべつだんそれを苦にするふうもなく、二三歩また前へ進むとじっと立って、そのまっ黒な目でぐるっと運動場じゅうを見まわしました。そしてしばらくだれか遊ぶ相手がないかさがしているようでした。けれどもみんなきょろきょろ三郎のほうはみていても、やはり忙しそうに棒かくしをしたり三郎のほうへ行くものがありませんでした。三郎はちょっと具合が悪いようにそこにつっ立っていましたが、また運動場をもう一度見まわしました。

それからぜんたいこの運動場（注2）は何間（注3）なんげんあるかというように、正門から玄関まで大またに歩数を数えながら歩きはじめました。一郎は急いで鉄棒をはねおりて嘉助とならんで、息をこらしてそれを見ていました。

そのうち三郎は向こうの玄関の前まで行ってしまうと、こっちへ向いてしばらく暗算をするように少し首をまげて立っていました。みんなはやはりきろきろ（注4）そっちを見ています。三郎は少し困ったように両手をうしろへ組むと向こう側の土手のほうへ職員室の前

を通って歩きだしました。

その時風がざあっと吹いて来て土手の草はざわざわ波になり、運動場のまん中でさあっと塵(ちり)があがり、それが玄関の前まで行くと、きりきりとまわって小さなつむじ風になって、黄いろな塵は瓶をさかさまにしたような形になって屋根より高くのぼりました。

すると嘉助が突然高く言いました。

「そうだ。やっぱりあいづ又三郎(注5)だぞ。あいづ何かするときっと風吹いてくるぞ。」

（宮沢賢治(みやざわけんじ)「風の又三郎」による。）

（注1） にわか＝突然。

（注2） ぜんたい＝いったい。

（注3） 何間あるか＝どのくらいの長さがあるか。

（注4） きろきろ＝きょろきょろ。

（注5） あいづ＝あいつ。

一 ――線部①「どてをぐるっとまわって、どんどん正門をはいって来ると」とありますが、ここでの表現の工夫として最も適切なものを、次の**1**から**4**までの中から**一つ**選びなさい。

1 擬態語が用いられている。

2 倒置法が用いられている。

3 体言止めが用いられている。

4 直喩が用いられている。

二　――線部②「一人も返事をしたものがありませんでした」とありますが、その理由として最も適切なものを、次の**1**から**4**までの中から**一つ**選びなさい。

1　みんなが騒がしく遊んでいたので、「お早う。」と挨拶をした三郎の声がよく聞き取れなかったから。
2　先生でもないのに「お早う。」と挨拶をした三郎の態度が、偉そうに思えて気に入らなかったから。
3　先に「お早う。」と挨拶をする心づもりでいたのに、三郎に先を越されてたじろいでしまったから。
4　友達同士ではしたことがない「お早う。」という挨拶を三郎にされて、気おくれしてしまったから。

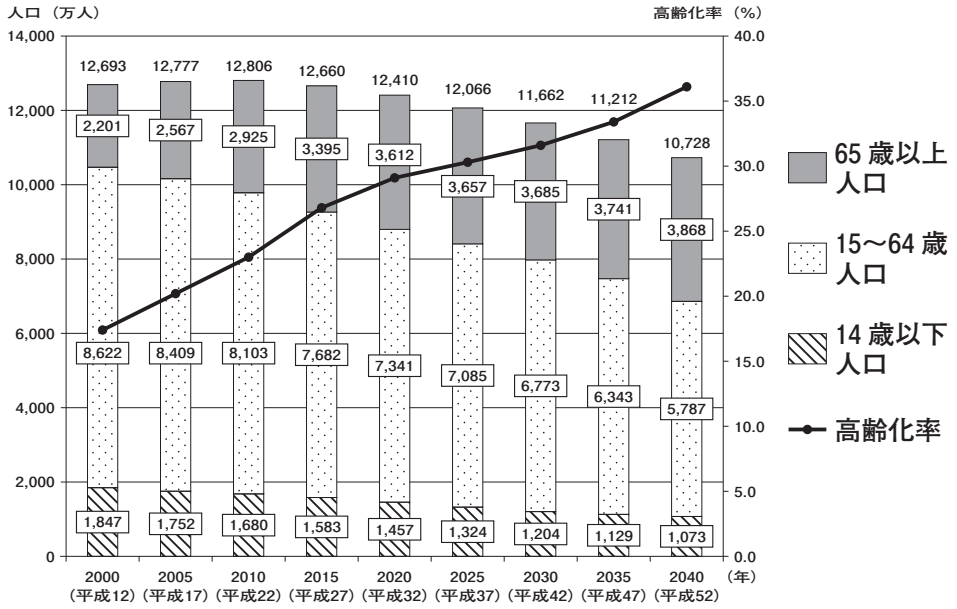
三　本文中の［　　］で囲まれた部分から、嘉助のどのような様子が読み取れますか。次の**1**から**4**までのうち、最も適切なものを**一つ**選びなさい。

1　「風の又三郎」の吹かせた風が弱くてがっかりしている様子。
2　転校生が「風の又三郎」だと確信して興奮している様子。
3　三郎の行動の意味が分からず腹を立てている様子。
4　三郎を仲間にすることができて喜んでいる様子。

4

次は、西暦二〇〇〇年以降の**【日本の人口推移を表したグラフ】**（予想を含みます。）と、それを見て分かったことについて**【田村さんが書いた文章】**です。これらを読んで、あとの問いに答えなさい。

【日本の人口推移を表したグラフ】



※　棒グラフの上の数値は総人口を表す。
※　高齢化率＝65 歳以上の高齢者人口が総人口に占める割合。

（総務省ウェブページによる。）

【田村さんが書いた文章】

まず、棒グラフを見て分かることが四つある。

・二〇一〇年以降、総人口が減っていく
・十四歳以下の人口が減っていく
・十五～六十四歳の人口が減っていく
・［　　］

そして、折れ線グラフから、高齢化率が上昇し続けていくことが分かる。二〇四〇年には、二〇〇〇年の二倍以上になっていると予想されている。

一　［　］には、棒グラフの［■］の部分の変化を読み取った内容が入ります。［　］に当てはまる言葉を、**【田村さんが書いた文章】**の書き方を参考にして、**十五字以内**で書きなさい。

5　次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

最近では、流(注)しの排水管はあまり目につかない部分に設置するようになってきたこともあって、意識して見ないと気づかないことも多いのですが、たしかに排水管は図1に示したようにS字形の構造（正確にはSを横に倒した形）をしています。

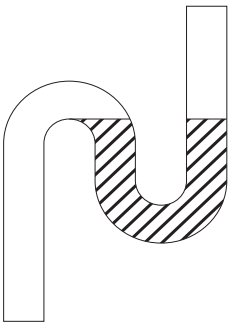
この部分がS字形になっていると、いつも図1のように管内に水が残った状態になります。排水管は流しを下水管につなぐためのものなので、本当はS字形の管よりもまっすぐな管でつないだほうが排水の流れはスムーズになります。それではなぜ、わざわざS字形にしているのでしょうか。

排水管がまっすぐだったとしましょう。すると、排水管の先の下水管から、室内にまで臭気が流れてきたり、虫が侵入してきたりする可能性があります。この臭気の流入や虫の侵入を、S字部分にたまった水が防いでいるのです。排水管がまっすぐではなく、S字形をしているのには、このような理由があります。

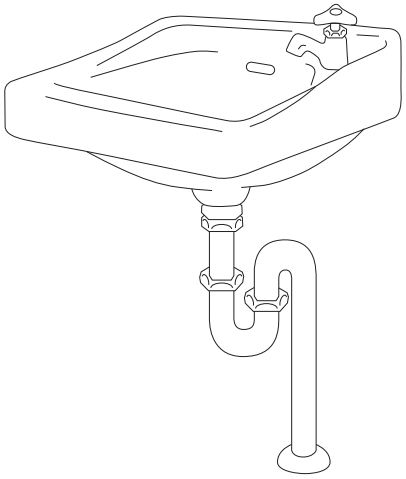
（鎌田正裕「なぜ流し台の下の排水管はS字形なの？」による。）

（注）　流し＝流し台のこと。

【図1　S字形の排水管】



参考　〈流しと排水管〉



一　次の【問い】に対する答えとして最も適切なものを、あとの1から4までの中から一つ選びなさい。

【問い】

なぜ、排水管はS字形になっているのか。

1　S字部分にたまった臭気で虫を集め、水の流れをスムーズにするため。
2　S字部分にたまった水で、臭気や虫の流入をスムーズにするため。
3　S字部分にたまった水が、臭気の流入や虫の侵入を防ぐため。
4　S字部分にたまった臭気や虫が、水の流入を防ぐため。

6 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

「明日」と書いて、「あす」「あした」、どちらで読みますか？

「明日」は古くから「あす」と読み、今と同じ〝今日の次の日〟という意味で使われてきました。『万葉集』にも、柿本人麻呂（かきのもとのひとまろ）の詠（よ）んだ歌、「明日香川（あすかがわ）　明日だに見むと思へやも　わが王（おおきみ）の御名（みな）忘れせぬ（せめて明日だけでもお会いしたいと思ってもかなわぬことなのに、明日香川と同じ名の明日香皇女（あすかのひめみこ）の名をどうしても忘れられない）」では、「明日」は「あす」と読むとされています。

実は、「あした」は別の意味の言葉で、「朝」という意味だったのです。

皆さんご存じの「浜辺の歌」。♪「あした浜辺をさまよえば～」、これは、「朝、浜辺をさまよえば」と歌っているのです。ちなみに、二番に出てくる「ゆうべ」も、今では「昨日の夜」を意味しますが、元々は「夜の始まり」「夕暮れ時」を言う言葉です。

時計もない時代、人々の生活は太陽と共にありました。太陽が沈んだ夜の時間帯の始まりを「ゆうべ」と言い、そこから、「よい」→「よなか」→「あかとき（あかつき）」、そして、白々（注）としてきて夜が終わる頃を「あした」と言っていたのです。つまり、今で言う「朝」のことですね。

「朝」という言葉もありましたが、「朝日」「朝霧」など、複合語としてしか使われず、単独では「あした」と言っていたのです。「朝」と書いて「あした」と読む場合もありました。

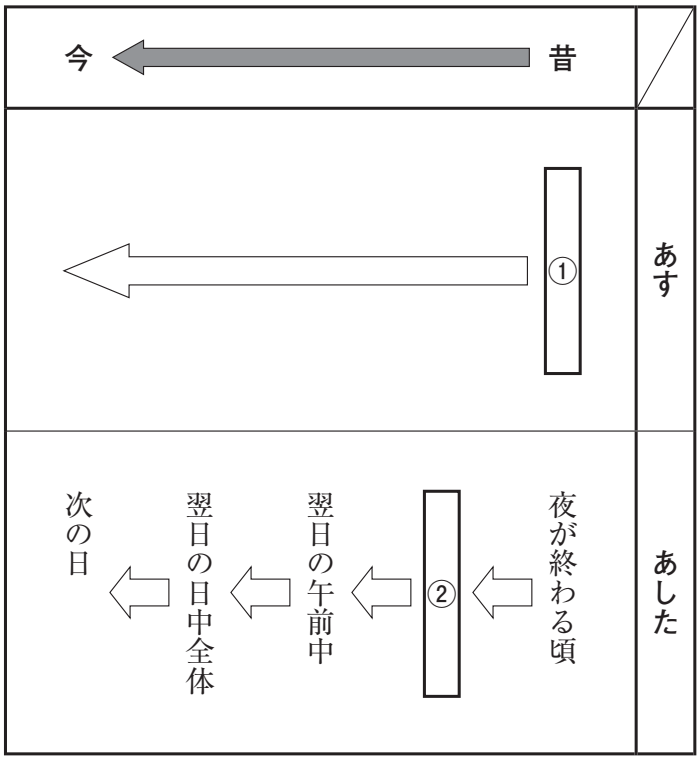
その後、鎌倉末期頃から、「あした」は、「夜が終わった後にくる次の朝、翌朝」の意味で使われることが多くなり、しだいに「翌日の午前中」「翌日の日中全体」と広がり、現在と同じ「次の日」という意味で使われるようになったのです。

こうして、「明日（あす）」と「あした」が同じ意味で使われるようになったのですね。

（ＮＨＫアナウンス室編『「サバを読む」の「サバ」の正体　ＮＨＫ気になることば』による。）

（注）　白々＝夜が明けて空がだんだん明るくなっていくさま。

【表】



一　上の【表】は、「あす」と「あした」という言葉の意味がどのように変化したかを整理したものです。①と②に当てはまる言葉を、次の1から4までの中からそれぞれ一つ選びなさい。

1　今日の次の日
2　あかつき
3　夜の始まり
4　翌朝

二　この文章について説明したものとして最も適切なものを、次の1から4までの中から一つ選びなさい。

1　「あす」と「あした」は違う意味の言葉だったということを、専門家の意見を引用しながら説明している。
2　「あす」と「あした」は違う意味の言葉だったということを、和歌などを例に挙げながら説明している。
3　「あす」と「あした」は違う意味の言葉だったということを、複数の辞書の記述を比較しながら説明している。
4　「あす」と「あした」は違う意味の言葉だったということを、筆者の体験を踏まえながら説明している。

7 次は、美化委員会に対して寄せられた【要望】と、美化委員会が掲示板に掲示する予定の【回答案A】、【回答案B】です。これらを読んで、あとの問いに答えなさい。

【要望】

美化委員会へ

　美化委員会に要望があります。

　現在，美化委員会では毎朝花壇に水やりを行っています。それを，放課後も行ってはどうでしょうか。これからの時期は暑くなり，朝の水やりだけでは足りないと思います。

　ぜひ，検討してください。

【回答案A】

　委員会で検討したところ，「指摘はもっともだ」，「放課後は，委員も部活動に出るのでできない」など，様々な意見が出されました。その結果，「委員だけで放課後に水やりを行うことは難しい」ということになりました。

　そこで，生徒の皆さんからもボランティアを募集して，放課後の水やりを行っていくことにします。

美化委員長　小林　太郎

【回答案B】

　委員会で検討した結果，「委員だけで放課後に水やりを行うことは難しい」ということになりました。そこで，生徒の皆さんからもボランティアを募集して，放課後の水やりを行っていくことにします。

　話し合いの中では，「指摘はもっともだ」という意見もあった一方で，「放課後は，委員も部活動に出るのでできない」という意見が出され，このような結論になりました。

美化委員長　小林　太郎

一　**【回答案A】**と**【回答案B】**の書き方の違いについて説明したものとして最も適切なものを、次の**1**から**4**までの中から**一つ**選びなさい。

1　**【回答案A】**では感想を述べてから事実を説明し、**【回答案B】**では事実を説明してから感想を述べている。

2　**【回答案A】**では事実を説明してから感想を述べ、**【回答案B】**では感想を述べてから事実を説明している。

3　**【回答案A】**では検討の経過を説明してから結論を述べ、**【回答案B】**では結論を述べてから検討の経過を説明している。

4　**【回答案A】**では結論を述べてから検討の経過を説明し、**【回答案B】**では検討の経過を説明してから結論を述べている。

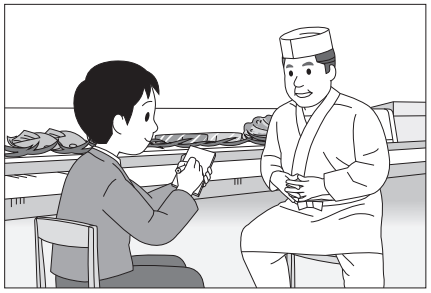
二　**【回答案A】**の冒頭に、次の一文を入れて掲示することにしました。□に当てはまる適切な言葉を**十八字以内**で書きなさい。

□という要望について回答します。

8 林さんは、「総合的な学習の時間」に「すし」について調べ、まとめることにしました。次は、林さんが**【事前に準備した質問】**とすし屋の店主である山本さんにインタビューをした際の**【記録の一部】**です。これらを読んで、あとの問いに答えなさい。

【事前に準備した質問】

・おすしの魅力は、どのようなところですか。
・酢飯を作るときに気を付けていることは何ですか。
・すしに、寿司（すし）、鮨（すし）などいろいろな漢字があるのはなぜですか。



【記録の一部】

林　おすしの魅力は、どのようなところだとお考えですか。

山本　すしの魅力は、季節を感じられるということですね。

林　季節を感じられるということですが、おすしの何で季節を感じることができるのですか。

山本　例えば、旬（しゅん）の食材です。私はいつも市場の人から情報を聞いて、旬の魚をできるだけ安く仕入れるようにしています。

林　苦労して旬の食材を仕入れているのですね。ところで、酢飯を作るときに気を付けていることは何ですか。

山本　お米は時期によって状態が違うので、それに合わせて水や酢の量を調節することですね。

林　［　　］

一　――線部「季節を感じられるということですが、おすしの何で季節を感じることができるのですか。」とありますが、林さんはどのような意図でこの質問をしたと考えられますか。次の**1**から**4**までのうち、最も適切なものを**一つ**選びなさい。

1　相手の発言を確かめて、事前に準備していた別の話題に移ろうとした。
2　相手の発言の問題点を指摘し、理解をより確かなものにしようとした。
3　相手の発言の内容をまとめて、他のものとの相違点を捉えようとした。
4　相手の発言を受けて、そこからさらに具体的な話を聞き出そうとした。

二　□の部分で、林さんは、――線部と同じ意図で質問をしました。その質問として最も適切なものを、次の**1**から**4**までの中から**一つ**選びなさい。

1　酢飯を作るのは大変なのですね。例えば、水の量を増やすのはどのような時期ですか。
2　水や酢の量を調節しているのですね。ところで、すしにいろいろな漢字があるのはなぜですか。
3　いつも市場で仕入れをしているのですか。市場が休みのときの仕入れはどうしているのですか。
4　旬の食材の仕入れは大変ですね。魚以外の食材はどのように仕入れているのですか。

9 次の一から七までの各問いに答えなさい。

一 次の1から3までの文中の――線部のカタカナを漢字に直し、楷書(かいしょ)でていねいに書きなさい。

1 ビョウソク五メートルの風が吹く。
2 地図のシュクシャクを調べる。
3 アマったお金を貯金する。

二 次の1から3までの文中の――線部の漢字の正しい読みを**ひらがな**でていねいに書きなさい。

1 詳細に述べる。
2 シャツの袖をまくる。
3 学校のことが新聞に載る。

三　次のアからオの文では、最も適切な言葉を、カの文では、――線部に当てはまる漢字として正しいものを、それぞれ（　　）の1から4までの中から一つ選びなさい。

ア　将来は、（1　気象　2　気性　3　起床　4　希少）予報士になりたい。

イ　彼がこの討論の（1　火種　2　点火　3　火薬　4　口火）を切った。

ウ　私が先生のお宅に（1　承ります　2　いただきます　3　参ります　4　いらっしゃいます）。

エ　彼女は、学級の（1　縁　2　床　3　板　4　面）の下の力持ちと言える存在だ。

オ　（1　たてこもる　2　たちならぶ　3　たなびく　4　たたずむ）雲の間から、春の光がもれている。

カ　新聞を読むシュウカン（1　間　2　慣　3　刊　4　感）を身に付ける。

四　次の文章の［①］と［②］に当てはまるものとして最も適切なものを、あとの**1**から**4**までの中からそれぞれ**一つ**選びなさい。

私は伝えたい内容が明確になるように、次の**ア**の文を**イ**の文に変えました。**イ**の文の方が、器の色が特に目を引き付けたことが伝わります。これは「青い」という［①］を、「青さ」という［②］に変えて、主語にしているためです。

ア　大きな青い器が私の目を引き付けた。

←

イ　大きな器の青さが私の目を引き付けた。

1　名詞
2　動詞
3　形容詞
4　形容動詞

五　次の**【説明】**は、「永」という字のどの部分を書く際のものですか。あとの㋐から㋓までのうち、最も適切なものを**一つ**選びなさい。

【説明】

徐々に筆圧を加えていき、一度筆を止めて、穂先をそろえるように払う。

六　次は、松田洋子さんが、職場体験でお世話になった小山健さんへ書いたお礼の【手紙の下書き】です。松田さんは、【手紙の下書き】の後付けの部分について正しく直すことにしました。直し方とその理由として最も適切なものを、あとの1から4までの中から一つ選びなさい。

【手紙の下書き】

拝啓

さわやかな季節となりました。お元気でお過ごしでしょうか。

さて、先日の職場体験の際には大変お世話になりました。私たちの質問にていねいにお答えくださいましてありがとうございました。

最後になりましたが、皆様の御健康をお祈りいたします。

敬具

十月一日

松田洋子

小山健様

1　差出人が誰かを明確にするため、「松田 洋子」は、「十月一日」と同じ高さに書く。

2　相手に敬意を示すため、「小山 健 様」は、「松田 洋子」や「十月一日」より高い位置に書く。

3　名前の方が重要なので、「松田 洋子」と「小山 健 様」は、「十月一日」より高い位置に書く。

4　日付は重要ではない情報なので、「十月一日」は、「松田 洋子」や「小山 健 様」と同じ高さに書く。

七　次は、【漫画の一部】とその場面の【古典の文章の一部】です。【古典の文章の一部】の（　　）の中は現代語訳で書かれています。これらを読んで、あとの問いに答えなさい。（【漫画の一部】の①から⑤は、順番を表します。）

【漫画の一部】

【古典の文章の一部】

「何事思ひたまふぞ。㋐おぼすらむこと、何事ぞ」と言へば、「思ふこともなし。㋑物なむ心細くおぼゆる」と言へば、翁（おきな）、「月な見たまひそ。これを見たまへば、㋒物おぼす気色（けしき）はあるぞ」と言へば、「㋓いかで月を見ではあらむ」とて、（やはり月が出ると、縁側に出て座り、ため息をついている。）

1　**【漫画の一部】**の④にある□の部分は、**【古典の文章の一部】**のどの部分と対応していますか。対応している部分として最も適切なものを、**【古典の文章の一部】**の――線部㋐から㋓までの中から**一つ**選びなさい。

2　**【古典の文章の一部】**の作品名を**漢字四字**で書きなさい。

これで、国語Aの問題は終わりです。